

有楽町マリオン映画館チケット売り場横のエレベーター(★)で11階までお越しください。

1 日目
7 月26日(木)

受 付	開 会	基調講演	休 憩	シンポジウム
--------	--------	------	--------	--------

(敬称略)

基調講演 13:15~14:15

21世紀の貧困と社会福祉 —社会的正義と公正—

西九州大学副学長・健康福祉学部教授 古 川 孝 順

シンポジウム 14:30~17:30

21世紀の貧困と社会福祉 —排除から包摂へ—

わが国の相対的貧困率は上昇を続け、生活保護受給者も増加している。孤独や孤立、排除が社会問題になるなど、貧困問題に多くの関心が寄せられている。
本シンポジウムでは、貧困問題の構造を明らかにするとともに、貧困の解決に向けて社会福祉はどのように貢献できるかについて考える。安心・安全な暮らしを維持するセーフティネットを構築し、すべての人びとが包摂される社会を実現するための社会福祉の役割・機能について議論を深めたい。

北海道大学名誉教授、法政大学名誉教授 杉 村 宏
DPI日本会議事務局長 尾 上 浩
厚生労働省社会・援護局総務課長 古 都 賢
コーディネーター：同志社大学教授 上野谷 加代子

財団法人鉄道弘済会は各種の社会福祉事業を運営しております。

(2012年4月1日現在)

機関・施設別	箇所数
義肢装具サポートセンター	1
知的障害児・者施設	7
保育所	24
児童養護施設	1
老人福祉施設	6
福祉所	29
学生寮	1
旅行者援護所	1
福祉資料室	1
福祉相談室	2
計	73

財団法人鉄道弘済会は公益事業の運営を本旨とする財団法人として、1932年（昭和7年）に設立されました。

当会の行う公益事業には、身体障害者福祉、児童福祉、知的障害児・者福祉、老人福祉、旅行者援護などがあります。民間におけるわが国唯一の切断障害者の医学的リハビリテーション施設や全国に24か所の認可保育所、総合福祉センター「弘済学園」などの福祉施設の運営をはじめとして、社会福祉に関する理論と実践をつなぐ専門誌『社会福祉研究』の発行、視覚障害者用録音図書の製作奉仕者に対する顕彰事業等を行っております。

民間公益事業団体として、その時代の要請に応え、先駆的な役割を果たすとともに、ニーズの変化にも対応し、事業内容の充実に努めてまいりました。これらの公益事業に要する費用の不足分は、資産を有効活用した賃貸事業などの収益事業の益金等をもって充当しております。

9:00 9:30

12:30 13:30

15:00

2日目

7月27日(金)

受付	選択講座①	昼食	記念講演
	選択講座②		
	選択講座③		

選択講座

9:30~12:30

選択講座① 最低生活保障と生活保護 —社会的正義と公正の実現に向けて—

生活保護受給者は増加し続け、貧困についていっそうの理解が求められている。また、家族や地域での居場所を失う人びとは後を絶たない。なぜ貧困や社会的排除は拡がり続けるのか。

生活保護を必要とする人びとの増加に伴い、さまざまな生活課題を受け止める実践の現場には、大きな期待が寄せられている。日々のかかわりから生まれる課題や学びを共有し、実践につなげる、組織的な取り組みも進められている。本講座では、「最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長する」ことを目的とする生活保護制度を軸に、社会福祉が積み重ねてきた実践と研究をもとに、暮らしの再建を支える支援を参加者とともに考えたい。

神奈川県立保健福祉大学講師

埼玉県福祉部社会福祉課保護担当主査

婦人保護施設いずみ寮施設長

コーディネーター：首都大学東京教授

岩永理恵
大山大典宏
横田千代子
岡部卓

選択講座② 高齢期の孤立と貧困 —社会的正義と公正の実現に向けて—

高齢者を取り巻く生活課題を社会全体で支えるために、制度やサービスの整備が進められてきた。一方で、高齢者の暮らしに目を向けると、介護を苦にした家族の自殺や殺人事件、餓死問題、孤独死などに代表されるように、高齢者の尊厳がまもられているとは言い難い状況が散見される。高齢期における孤立と貧困が深刻・顕在化している中で、「高齢者の声」を尊重し、問題解決につなげていくことが大きな課題となっている。

本講座では、高齢者の生活実態から「高齢期の孤立と貧困」の構造を明らかにする。高齢者の権利擁護の意義を問い直しつつ、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために社会福祉が果たす役割を考えたい。

岩手県立大学専任講師

広島国際大学講師

横浜市社会福祉協議会障害者支援センター支援課長

コーディネーター：日本社会事業大学教授

菅野道生
八木裕子
川向雅弘
高橋流里子

選択講座③ 子どもの貧困と就学支援 —社会的正義と公正の実現に向けて—

子どもの貧困への関心が高まっており、様々なアプローチから、子どもの貧困の把握や解決に向けての取り組みがなされてきている。

本講座では、子どもの貧困について、社会福祉の具体的な制度や実践に加え、学校教育の視点からも検証を行う。子どもの貧困について、社会福祉と学校教育とが連携・協働していく必要性は認識されながらも、なぜ必要であるのかについては、実践面においても理念においても十分に議論が尽くされていない。

子ども時代からの不平等や貧困の連鎖を断ち切り、すべての子どもたちが夢と希望をもてる社会の実現に向けた社会福祉の役割を考えたい。

明治学院大学教授、救世軍機恵子寮・世光寮統括施設長

自立援助ホームあすなろ荘ホーム長

東洋大学教授

コーディネーター：法政大学教授

北川清一
恒松大輔
藤本典裕
岩田美香

記念講演

13:30~15:00

運命を生きる —闘病が開けた人生の扉—

慶應義塾大学教授 浅野史郎

【基調講演】

古川孝順 (ふるかわ こうじゅん)

(西九州大学副学長・健康福祉学部教授)

1964年日本社会事業大学卒業、1966年東京都立大学大学院修士課程修了、1994年博士(社会福祉学)学位取得。日本社会事業大学教授、東洋大学社会学部長、同ライフデザイン学部長、日本学術会議連携会員、日本社会福祉学会会長等を歴任、2012年4月より現職。主著:『社会福祉研究の新天地』(有斐閣)、『社会福祉原論(第2版)』(誠信書房)、『福祉改革研究—回顧と展望—』(中央法規出版)、『社会福祉の新たな展望—現代社会と福祉—』(ドモス出版)ほか。

【シンポジウム】

杉村 宏 (すぎむら ひろし)

(北海道大学名誉教授、法政大学名誉教授)

1940年生まれ。日本社会事業大学卒業後、東京都小平市福祉事務所にて公的扶助ケースワーカー、査察指導員。北海道大学教授、法政大学教授などを経て、2003年、北海道大学名誉教授授与。2011年、法政大学大学院研究科教授退職、法政大学名誉教授授与。主著:放送大学叢書『人間らしく生きる—現代の貧困とセーフティネット—』(左右社)ほか。

尾上浩二 (おのうえ こうじ)

(DPI日本会議事務局長)

1960年生まれ。小学校を養護学校、施設で過ごし、普通中学・高校へ進む。1978年、大阪市立大学に入学、障害者問題のサークル活動を引きついでに自立生活運動に取り組む。障がい者制度改革推進会議構成員、同総合福祉部会副会長を歴任。自立生活センターナビ運営委員。主著:『障害者総合福祉サービス法の展望』(共著、ミネルヴァ書房)ほか。

古都賢一 (ふるいち けんいち)

(厚生労働省社会・援護局総務課長)

1983年、厚生省入省。環境庁、総務庁、北九州市を経て、1997年、厚生省社会・援護局企画課課長補佐、1999年、同施設人材課福祉人材確保対策室長。2000年、名古屋大学法学部助教授、2004年、独立行政法人国立病院機構本部財務部長。厚生労働省老健局振興課長、同社会・援護局保護課長、同年年金総務課長を経て、2011年より現職。

上野谷加代子 (うえのや かよこ)

(同志社大学大学院社会学研究科教授)

大阪市立大学大学院(社会福祉学専攻)修了。研究関心は地域を基盤としたソーシャルワークの展開。日本福祉教育・ボランティア学習学会会長。モットーは「清く、正しく、美しく、そして朗らかに」。

【選択講座①】

岩永理恵 (いわたが りえ)

(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部講師)

2007年東京都立大学大学院社会科学部研究科修了。博士(社会福祉学)。貧困問題や最低生活研究に関心をもち、社会福祉、社会政策について研究。主著:『生活保護は最低生活をどう構想したか』(ミネルヴァ書房)。

大山典宏 (おおよま のりひろ)

(埼玉県福祉部社会福祉課保護担当主査)

立命館大学大学院政策科学研究科修了。2003年埼玉県入庁。2008年から現職。「生活保護受給者チャレンジ支援事業(アスポート)」の企画立ち上げに携わる。著書に『生活保護vsワーキングプア若者に広がる貧困—』(PHP研究所)等。

横田千代子 (よこた ちよこ)

(社会福祉法人ベテスダ奉仕女母の会いずみ寮施設長)

婦人保護施設「いずみ寮」に指導員として就職、1999年より現職。全国婦人保護施設等連絡協議会会長、「ポルノ被害と性暴力を考える会」代表世話人、「性暴力禁止法をつくろうネットワーク」発起人代表。女性・子どもへの支援を通じて貧困問題とかわる。

岡部 卓 (おかべ たく)

(首都大学東京都市教養学部教授)

貧困・低所得者問題とその方策(政策と方法)について研究・社会的活動を行う。ホームレスや生活保護受給者の実態調査、生活保護制度や生活福祉資金貸付制度のあり方、福祉事務所・保護施設の自立支援プログラムの策定等にかかわっている。

【選択講座②】

高橋流里子 (たかはし るりこ)

(日本社会事業大学社会福祉学部教授)

日本女子大学大学院修了(修士)後、群馬大学医療技術短期大学部等を経て1991年から日本社会事業大学にて研究・教育に従事。専門は地域生活をする障害者・同家族支援に関すること。障害・高齢者のケアマネジメント等、地域における保健・福祉相談も実践中。

菅野道生 (かんの みちお)

(岩手県立大学社会福祉学部専任講師)

担当は老人福祉論。2004年明治学院大学大学院修士課程修了。東京ボランティア・市民活動センター専門員、東日本国際大学福祉環境学部准教授を経て、2012年より現職。著書に「社会福祉士シリーズ13 高齢者の支援と介護保険制度」(弘文堂)、論文に「大都市の公営集合住宅における高齢化と世帯規模の縮小の実態—江東区における公営集合住宅入居者調査から—」『自治と分権』47号等。

八木裕子 (やぎ ゆうこ)

(広島国際大学医療福祉学部講師)

日本社会事業大学卒業後、専門学校にて教育に携わる。その後20年間、介護福祉士・社会福祉士の養成に従事する傍ら、週末は自らホームヘルパーとしても活躍。2008年10月より現職。

川向雅弘 (かわむかい まさひろ)

(横浜市社会福祉協議会障害者支援センター支援課長)

1960年生まれ。上智大学文学部社会福祉学科卒業。明治学院大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士前期課程修了。1986年、横浜市社会福祉協議会入職。区社会福祉協議会、地域ケアプラザ等に勤務。

【選択講座③】

北川清一 (きたがわ せいいち)

(明治学院大学社会学部社会福祉学科教授、救世軍機恵子寮・世光寮統括施設長)

専門領域はソーシャルワーク、児童養護施設実践論。ソーシャルワーク研究所長(『ソーシャルワーク研究』相川書房刊、編集委員)。主著:『グループワークの基礎理論』海声社、『演習形式によるクリティカル・ソーシャルワークの学び』(共編著)中央法規出版、『三訂・児童福祉施設と実践方法』(編著)中央法規出版、『児童養護施設のソーシャルワークと家族支援』明石書店ほか。

恒松大輔 (つねまつ だいすけ)

(社会福祉法人子供の家 自立援助ホームあすなろ荘ホーム長)

日本社会事業大学卒業後、児童養護施設・知的障害児施設・認証保育所にて従事し、2004年度よりあすなろ荘にて勤務。2006年度よりホーム長に。全国自立援助ホーム協議会等において運営役員等を歴任。

藤本典裕 (ふじもと のりひろ)

(東洋大学文学部教育学科教授)

1959年、大阪府生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。教育行政学専攻。東洋大学非常勤講師などを経て、現職。主著:『学校から見える子どもの貧困』(共編著、大月書店)ほか。

岩田美香 (いわた みか)

(法政大学現代福祉学部教授)

北海道大学大学院教育学研究科准教授などを経て、2009年より現職。専門は、子ども・家族福祉論、教育福祉論(子育て・子育ての社会的不平等、子どもと家族へのソーシャルワーク)。八王子市などでスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーを務める。主著:『ひとり親家族からみた貧困』『貧困研究』Vol.3 (明石書店)ほか。

【記念講演】

浅野史郎 (あさの しろう)

(慶應義塾大学総合政策学部教授)

1948年生まれ。仙台市出身。東京大学法学部卒業後、1970年、厚生省に入り、老人福祉課課長補佐、年金局企画課課長補佐、障害福祉課長、生活衛生局企画課長などを歴任。1993年、宮城県知事選挙に出馬、当選。以後3期12年にわたり福祉分野での改革、情報公開度ランキング日本一など、透明性の高い県政を実現。2006年より現職。2009年5月にATL(成人T細胞白血病)を発症。入院治療に入り、骨髄移植を受けて2010年2月退院。2011年には慶應義塾大学に復帰し、TVのコメンテーターとしても再び登場している。

お申し込み・お問い合わせ先

財団法人鉄道弘済会 社会福祉部「社会福祉セミナー」係

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-1 TEL 03-5276-0325 FAX 03-5276-3606

E-mail fukushikenkyuu@kousaikai.or.jp URL http://www.kousaikai.or.jp/

第49回社会福祉セミナー申込書（ファックス・郵送用）

（下欄の各□印には該当する項目に✓をお付けください）

参加種別	☐ 一般	ふりがな		ふりがな	
	☐ 学生 （学生割引あり）	所属団体名*		連絡担当者氏名*	

*個人参加の場合は、「所属団体名」「連絡担当者氏名」の欄のご記入は不要です。

受講証送付先	☐ 自宅 ☐ 勤務先	〒			TEL		FAX	
受講料送金方法	☐ 銀行振込	☐ 郵便振替	☐ 現金書留	送金予定日	月	日	E-mail	

■お申し込みとともに、受講料をご送金ください。受講証および領収証の発送は、7月6日(金)ごろを予定しております。

■請求書の発行などについて、特にご指示のある場合は、下の特記事項欄にご記入ください。

受講者氏名		勤務先名・学校名等	職 名	希望選択講座		◀希望選択講座の番号をご記入ください。 選択講座は、選択講座①、選択講座②、選択講座③のいずれか1つの選択となります。 定員に達した場合には、第2希望の選択講座に変更させていただきますので、ご了承ください。	
例	こうさい たろう	財団法人鉄道弘済会社会福祉部	計画課 係長	第1希望	第2希望		
	弘済 太郎				①		③
1							第1希望
2				第1希望	第2希望		
3				第1希望	第2希望		

特記事項	■手話通訳などのご希望がありましたら、ご記入ください。■受講証・領収証のあて先、その他特記事項がありましたら、ご記入ください。	■お申し込み・お問い合わせ先 財団法人鉄道弘済会社会福祉部 『社会福祉セミナー』係 TEL 03-5276-0325 FAX 03-5276-3606
------	---	---

●個人情報について 上記の個人情報は、受講証の発送、受講料の請求およびご入金の確認、次回以降開催のご案内のみに使用いたします。

FAX ↑ FAX 03-5276-3606